



エグゼクティブブリーフ

自動車業界に不可欠な サプライチェーンのデジタル化

サプライチェーンマネジメント

2021年、サプライチェーンを混乱に陥れたマイクロプロセッサ不足は、多くのハイテク産業に衝撃を与え続けています。最も深刻な影響を受けているのが自動車産業で、必要なチップの入手が難しくなり各メーカーの生産が遅れたため、**大規模な損失**が発生しています。世界的なパンデミックによる不安定な状況も加わり、こうしたサプライチェーンの変動は新たな課題をもたらし、サプライチェーンマネジメントにアジリティが必要不可欠となっています。

なぜ、サプライチェーンのニーズや運用手法は変化しているのでしょうか？

サプライチェーン戦略が全体的なビジネス目標に沿っていくためには、現代の組織内でみられる他の多くの戦略と同様に進化し続けなければなりません。典型的なサプライチェーンの問題だけでなく COVID や経済的なショックに直面するデータ主導型の世界では、すべての企業がサプライチェーンにさらに集中的かつ積極的に取り組まなければならないのです。

企業は、より広範囲のリソースを活用し、より広い分散型ネットワークでサプライパートナーとの可視性、管理、関与を強めながら、競争上の優位性を実現できるサプライチェーンツールを必要としています。これには企業ビジネスのあらゆる部分をパートナーと結びつけ、需要供給計画全体の業務と知識を改善し、より柔軟で動的な生産スケジュールをサポートする必要があります。

そうした取り組みをサポートするため、組織のテクノロジースタックに導入できるのが最新のサプライチェーンツールです。サプライチェーンをデジタルに変換し、レジリエンスとイノベーションを向上させるのです。企業は、クラウドによる自動化と高度な分析により、生産と流通を同期させ、幅広いビジネスサプライエコシステムで、需要に応じた成長を実現することができます。

自動車メーカーの**現在の課題**は、失われた生産にどう対処するかです。**最新の試算**では、2021年には品不足から770万台の減産となり、2100億ドルの減収になりました。世界的な景気変動も自動車産業にとっては深刻な問題です。2018年の世界的な関税合戦の煽りで、商品価格は急上昇しました。その後、COVIDが発生し、現在は半導体業界からの影響と、より広範囲なサプライチェーンの問題が発生しています。

デジタルサプライチェーンのメリット

自動車産業でサプライチェーンのデジタル化を進めていない企業は、商品、パーツ、その他重要なハイテク部品を求める長い列の最後尾につくこととなります。こういった問題を前に、おそらく過去の機能停止や市場ショックを経てデジタル化を進めてきた企業は、現在やこれからの課題により良く適応することができます。

クラウドとデータインサイトのパワー、さらにモノのインターネットやロボティクス、リモート接続が推進するデジタルサプライチェーンで、業務のレスポンスタイムは向上するでしょう。将来の危機に対処する際、適応力や変化を余儀なく求められるであろうサプライチェーンシステムに、この戦術が柔軟性を与えます。

サプライチェーンの中のプレーヤーも、自動車メーカーの**カーボンニュートラル**や**ネットゼロの目標**を確実に達成するための適応が必要であり、BMWやメルセデス・ベンツなど企業の多くがカーボンニュートラルなバリューチェーンの構築を目指しています。このような目標に必要な報告のレベルを上げるにはデジタルサプライチェーンが不可欠です。

コストの最適化	実用的な インサイトの 推進	アジリティと レジリエンスの構築
サプライチェーン コスト 25%削減	切り替え時 のロスタイム 30%削減	運転資本 22%削減
廃棄コスト 40%削減		請求書処理時間 98%短縮
輸送コスト 10%以上削減		輸送リードタイム 2日短縮

デジタルサプライチェーンの運用と実用のメリット

インフォアの**グローバルな顧客データベース**が上記結果で示すように、クラウドベースでデジタル化されたサプライチェーンは、ビジネスに目に見えるメリットをもたらすことがすでに証明されています。

これらのメリットと運用改善により、企業は車のブランドや大小サプライヤーが直面する継続的な問題に対処することができます。近年のCOVID危機の最中、自動車会社がサプライチェーンの緩和と管理に取り組んだ、次のような例があります。

- 最近、英国のあるメーカーは皮革部品で、世界初のブロックチェーン技術を使用した**デジタルサプライチェーンのトライアル**を発表しました。デジタルツインシステムを使用し、GPS、生体認証、QRコードを使って、革の生産元から車両までの全工程を追跡します。
- フォードとGMはチップ危機に対して実用的なアプローチを取り、**半導体ベンダーとの共同研究**で、使用するマイクロコントローラーユニットの数を95%削減を目指しました。そこでは、サプライチェーンの予測可能性を回復するため、新製品の共同開発、調達、製造が行われています。

測定可能なメリット

会社全体の改革を計画するにも、サプライチェーンにフォーカスする場合でも、今、先進的なサプライチェーンプランニングソリューションを採用することには多くの利点があります。

データインサイトの適用製造業者はこのテクノロジーを使ってデータを活用し、ビジネス指標が意味を成すようにすることができます。アナリティクスはこの戦いで重要な武器となりますが、起こり得る結果を予測し、また過去の影響も理解する戦略的な適用を行う必要があります。

サプライチェーンの可視性を高める サプライチェーンの可視化は大きな利益をもたらしますが、それはティア1サプライヤに留まらず、サプライネットワークのティア全体に及ぶものでなければなりません。ボトルネックやリスクを正確に把握するには、このような細部までのドリルダウンしかありません。

リスクの軽減 トラブルが起きそうな所を見るだけでは不十分です。企業は最適な場所へのルートで在庫を動かし続けるため、必要に応じた注文の再割当や出荷ルートの再マッピングで迅速に対応する必要があります。Infor Nexus™ のようなプラットフォームは、共通のプロセスと共有データを介して取引先をリンクさせることで検出と応答能力を強化し、リスクを大幅に軽減することができます。

コラボレーションによるイノベーション 製品設計の仕様変更で、在庫ギャップが緩和できる場合もあります。より容量の大きい（コスト高の）消費者用チップを調達することで、優先度の低い車載用の顧客アカウントが、半導体メーカーの注目度が高いアカウントに変わる可能性があります。

不測の事態に備えて

ビジネスの変動は今に始まったことではありませんが、今日のグローバルネットワークでどこまでも接続された電子商取引は、景気の乱高下をより極端にしているように見えます。変化はより速く、時に前触れもなくやってきます。そのスピードが鈍ることは期待できません。このことを認識して技術を更新していく企業が、より良い適応力を持つことができます。サプライチェーンの改新は、自動車業界にある企業が取るべき最も重要なステップの1つです。AIとデータサイエンスを組み込んだ高度なソリューションが、先進的な企業の俊敏性をサポートします。

詳しくはこちら [➤](#)



インフォアは、業界特化型のビジネスアプリケーションをクラウドで提供しています。17,000人の社員が、175か国以上で65,000以上のお客様のビジネスを支援しています。詳しくは、www.infor.com/ja-jp/ をご確認ください。

Copyright© 2022 Infor. All rights reserved. 本文に記載の文字標章および 図形標章は、インフォアおよび/またはその関連会社ならびに子会社の商標および/または登録商標です。本文に記載のすべての他の商標は各所有者の所有物です。 www.infor.com.

東京都千代田区有楽町1-1-3 東京宝塚ビル16階

INF-2642744-ja-JP-0522-1